

スクミリンゴガイ駆除トラップの改良および再生二期作に関する研究

【活動グループの紹介】

千葉県立農業大学校は、県で唯一の農林水産省所管の農業改良助長法に基づく「農業者研修教育施設」であり、千葉県農業の担い手を養成する中核的な機関として位置付けられています。

病害虫専攻教室は、基本的な栽培技術の習得に加えて、病害虫及び天敵の発生生態の解明、総合的病害虫管理技術等の習得を目標に掲げ、日々研究に励んでいます。現在、11名の学生が在籍しており、それぞれ異なる研究テーマを持ちながら、互いに助け合い、協力しながら研究を進めています。

[千葉県立農業大学校／千葉県](#) ←学校の詳細はこちらから！

【取組の紹介】

駆除トラップを作成し、水田に生息するスクミリンゴガイの捕獲を行っています。昨年度のトラップの形状を改良し、使いやすさと駆除効果の向上を実現しました。また、誘引餌をドッグフードからラビットフードに変更することで、アライグマなどによる荒らし被害の防止にも成功しています。この取り組みにより、減農薬栽培が可能となり、環境保全に貢献しています。さらに、日本固有種であり絶滅危惧II類に指定されているトウキョウサンショウウオの保護にもつながっています。

また、菌根菌を活用した再生二期作にも挑戦しています。菌根菌は植物の根に共生し、菌糸を伸ばして土壌から栄養分を吸収し、植物に供給する働きがあります。再生二期作が実現すれば、1回の田植えで2回の収穫が可能となり、作業の手間やコストの大幅な削減が期待されます。

グループ名

千葉県立農業大学校
病害虫専攻教室



Q1 取組を実施する中で、工夫している点は？

開発した駆除トラップをどう改善していくか工夫しました。前回の問題点を洗い出すことで、より改善された駆除トラップを開発できました。誘引餌をドックフードからラビットフードに変更することでアライグマ等の害獣における誘引効果の減少につながりました。



千葉県立農業大学校
病害虫専攻教室の
みなさんにお聞きしました！



Q3 大変だったことはありますか？

毎週のように調査へ赴いていますが、駆除トラップを回収する際に、水の中へ設置するために腐敗してしまった誘引餌の匂いがきついです…。

また、畠数の調査では一日がかりの膨大な作業量と時間が大変で、苦労に感じています。



Q2 取組において、やりがいを感じることは？

取組を実施するにあたって、ひとりで活動するものではなく、同期や先生、先輩と協力して活動しています。全員で協力し、ともに作業し、意見を出し合えることが楽しく、やりがいを感じています。



結果を残せるように
全力を尽くします！

Q4 今後の抱負や目標は？

今回の取組における調査も先輩の意志と知恵を引き継ぎ頑張っていきたいです。また、当室では計11人それぞれが持っているテーマを全員で協力して研究しています。今後も新たに取組を実施していく予定なので、意欲的に活動していきたいです。



取材を終えて

10月中旬、千葉県立農業大学校にお邪魔して、みどり戦略学生チャレンジにエントリーいただいた「病害虫専攻教室」の皆さんに、みどり戦略学生チャレンジに向けた取組の進捗状況について取材をさせていただきました。

現地交流会を通して、取組に係る専門的なお話を聞かせていただいて、大変勉強になりました。取材で伺った教室の中にも、没になった研究物などがあり、研究の懸命さが伝わりました。また生き物の飼育もされているそうで、トウキョウサンショウウオやクワガタ、金魚などがあり、自然とともに歩んでいる専攻室ならではだと感心しました。

廊下には今まで受賞された賞の数々、研究の成果、昆虫の標本が展示されており、普段から懸命に活動されていることが覗えて素晴らしく感じました。また、「農業の営みの中で育まれている」といったお話が印象的でした。トウキョウサンショウウオは保護しなければ5年以内に絶滅する生物だそうで、人と自然が共生できるように、取組を通して活動していくことの重要さを感じました。

今回ご紹介いただいた駆除トラップは特許を取得し、現在は佐賀県への販売に向けて準備を進めていらっしゃるそうです。皆様の研究成果が現場の方々に喜ばれている様子が伝わり、深く感動しました。学生さん一人ひとりが異なるテーマで研究しているとのことで、今後も、皆様の研究のさらなるご発展を、私たち一同心より願っています。取材へのご協力、ありがとうございました！

